

(別記様式第3号)

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博(医)甲第1205号	氏名	宗 陽子
論文審査担当者	主査教授	関根 一郎	
	副査教授	金武 洋	
	副査教授	永安 武	
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 Glutathione S-transferase(GST) の核内局在性が婦人科癌において抗癌耐性の指標となりうるか否か、また予後予測因子となりうるかを、探ろうとした研究目的は明瞭である。</p>			
<p>2. 研究手段に関する評価 GST の局在を知るための薬剤感受性株、薬剤耐性株の免疫染色、婦人科癌の組織標本の GST や MRP-1(multi-drug resistance associated protein-1)の免疫染色の手技、またそれらの評価方法さらに予後との関連の検討など研究手段は妥当であった。</p>			
<p>3. 結果・考察の評価 上皮性卵巣癌で、核および細胞質ともに GST 陽性群は、細胞質のみ陽性群やともに陰性群と比較して、5年生存率は低率であった。また、MRP-1 の発現と相関を認めた。さらに術前化学療法を施行した子宮癌で治療前核内発現が陰性であったものが、治療後陽性化したものを半数以上に認めたとの結果を得ている。</p>			
<p>以上のように、本論文は婦人科癌において GST の核内局在が薬剤耐性の大きな指標となりうる可能性を示唆し、さらに上皮性卵巣癌の予後推定因子としての有用性を明らかにし、婦人科癌の治療の研究推進に大きく貢献したものと評価され、学位(医学)に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと。